

H29.1.19

継続的改善のためのIR/IEセミナー

於：明治大学 駿河台キャンパス

継続的改善のためのIR/IEセミナー の意義と目的

茨城大学 全学教育機構

畹田 敏行

なぜIRなのか？

- 米国のIRは必然性があるので活動している。
- では日本はどうか？
- よくわからない？
- 政策誘導？
- 大学評価という流れは以前からあり、IRとも親和性は高い（と思っている）。

経営改善

- 大学経営に十分に情報を活用できていない？
 - 現状把握を感覚だけに頼っている？
- 悪いことではないが、データも要ると思う。いざというとき、状況がよくわからないので。
 - 授業本数は？
 - 学生数は？
 - 論文何本あるの？
- 非営利組織なので、利潤のようなキーとなる数値がない。
- 「学生の学び」の最大化？

教育改善

- 質の向上にゴールはない。ある意味、無限ループ。
 - ちょっとでもよくなれば、それでよいのでは？
- 継続的改善とは、「改善し続けること」というよりは、日常に改善を組み込むことではないか。
- 質は提供先によって規定されるもの。
- 学生にとってどうなのか？
- 同僚の教員にとってどうなのか？

内部質保証システムの構築

- 極めて簡単に言えば、自己点検評価とFD。
- 目標（教育目標など）に照らして、現状、どうなっているのか、その把握を行う。目標との差分。
- こうしたい（はず）、こうなっていたい（はず）。
- でも、いまこうなっている
- じゃあどうします？
- これをきちんとやってもらえるか。ずっと。

内部質保証システムの運用

- せっかく設置したIRを定着させるには情報の消費先が必要。定常的運用。
- 教育の継続的改善（IE）の実施と大学評価による現状把握結果や、IRが生成する情報は需給関係としてもうまくバランスできるのではないか？

今回のセッション

- 1 : 指標の運用と活用
- 2 : 教育の質保証システム
- 3 : 立上げ期にあるIRオフィスの課題

※毎回、変えていくが、積み上げを考えるとある程度の継続性は持たせるイメージ。

セッションの基本構成

- 事例報告（25分＋質疑応答5分）
 - 事前質問への解答回答と解説（45分）
 - グループワーク（60分）
-
- まずは試行。アイデアや感想をください。
 - 質問感想票方式は、大人数に対応できない。どうしたらよいか？

名札



- 事務系の方は、現在だけでなく、これまで一番経験が長い系統も貼っていただいかまいません。
- 白色のシールはご自由にお使いください。
(ここにはない系統、知りたいこと等)

講演者・Q&A作成回答者・ファシリテーター

- 大野 賢一（鳥取大学 学長室IR セクション 学長特別補佐（IR 担当））
岡部 康成（帯広畜産大学 大学情報分析室 特任准教授）
小湊 卓夫（九州大学 基幹教育院 准教授）
佐藤 仁（福岡大学 教育開発支援機構 教学IR室長 [人文学部准教授]）
鳶田 敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門（IEオフィス） 准教授）
白石 哲也（清泉女子大学 情報環境センター（IR））
末次 剛健志（佐賀大学 総務部 企画評価課 係長（I R 主担当））
関 隆宏（新潟大学 経営戦略本部評価センター [IR推進室兼務]）
橋本 智也（京都光華女子大学 EM・I R 部）
藤井 都百（名古屋大学 評価企画室 講師）
藤原 将人（立命館大学 教学部 学事課 課長補佐）
山本 鉦（九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 助教）
山本 幸一（明治大学 教学企画部 評価情報事務室 副参事）